

臨床リハビリテーション学 (認知症)

《担当者名》鎌田樹寛 t.kamada@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

テーマとしては、認知症に関するわが国の対策・対応（リハビリテーション）について系統的に学ぶ（本講義は、日本作業療法士協会「専門作業療法士（認知症；専門基礎）」との単位互換された科目である）。本授業では、認知症の専門基礎に位置付けられる「対象者に応じた適切な評価・治療ができる能力」の獲得を目的として学修する。

【学修目標】

一般目標：我が国の認知症リハビリテーションの病期ごとの実践や認知症を取りまく環境の理解について、包括的に学び、理解を深めることを目標とする。

行動目標：

1. 認知症の予防や回復期、維持期における課題やアプローチについて説明ができる。
2. 認知症の事例検討の方法が説明できる。
3. 認知症を取り巻く環境側面（人・物・制度）、考慮すべき点、そしてサポートについて説明できる。
4. 対象者や家族に対する「協業」を目的とする評価法の意義を説明できる。
5. 家族支援の現状や実際について、事例検討や討論から問題点や解決策について考察できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	リハビリテーションの実践	保健領域における作業療法現状と課題 ・健康増進・予防的観点からのアプローチについて学ぶ 「滝川市65歳大学」の実際を通して	鎌田樹寛
2	リハビリテーションの実践	回復期病院における作業療法 ・高齢者に対する感覚統合療法について学ぶ	鎌田樹寛
3	リハビリテーションの実践	専門病院における作業療法 ・事例検討を通して学ぶ	鎌田樹寛 ゲストスピーカー
4	リハビリテーションの実践	生活維持期における作業療法1 ・介護老人保健施設「生活リハビリテーション」におけるアプローチについて学ぶ	鎌田樹寛
5	リハビリテーションの実践	生活維持期における作業療法2 ・ディケアにおけるアプローチについて学ぶ	鎌田樹寛
6	リハビリテーションの実践	事例検討の方法について学ぶ ・臨床データの整理や量的・質的意味について学ぶ	鎌田樹寛
7	認知症を取り巻く環境の理解	コミュニケーションや対人関係の基本や基礎知識を学ぶ	鎌田樹寛
8	認知症を取り巻く環境の理解	対象者や家族に対するコミュニケーションや対人関係について学ぶ ・対象者中心の評価法を通じた協業について学ぶ	鎌田樹寛
9	認知症を取り巻く環境の理解	多職種連携や協業に必要な技術や能力について学ぶ	鎌田樹寛
10	認知症を取り巻く環境の理解	認知症を取り巻く環境（制度的）理解について学ぶ ・関連法規を通して	鎌田樹寛
11	認知症を取り巻く環境の理解	認知症を取り巻く環境（物理的）理解について学ぶ ・環境要因で考慮すべきポイントとは	鎌田樹寛
12	認知症を取り巻く環境の理解	認知症を取り巻く環境（社会的資源）理解について学ぶ ・社会資源の利用によるサポートとは	鎌田樹寛
13	認知症を取り巻く環境の理解	家族支援の現状や実際について学ぶ 1. 事例検討からの理解	鎌田樹寛
14	認知症を取り巻く環境の理解	家族支援の現状や実際について学ぶ 2. 討論を通じた理解	鎌田樹寛
15	まとめ	振り返りとまとめ	鎌田樹寛

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート100%

【教科書】

教科書：特に定めない。適宜資料を配布する。

【参考書】

参考書：必要があれば、講義の中で紹介する。

【学修の準備】

予習では、テーマに関する文献の検索や講読（80分）

復習では、配布資料に関する文献や関連論文の講読（80分）

【ディプロマ・ポリシーとの関連】

リハビリテーション領域における高度な知識および技術を修得し、対象者が抱える諸問題に対して、科学的根拠に基づいた質の高い臨床実践を展開できる問題解決能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

鎌田樹寛（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

生活維持期の老人病院や介護老人保健施設における対象者への介入経験に基づきながら、講義内容を組み立てる。